



七十人定員会
バーン・P.
スタンフィル長老

羊と羊飼い

「主はわたしの牧者であられる。」(詩篇 23:1)

わたしは、アメリカ合衆国モンタナ州の羊の牧場で育ちました。牧場では、300頭の羊もかかっていました。お母さんは、わたしたちが伝道資金を得るために羊を買ってくれました。

わたしの仕事は、面倒を見してくれる母親のない子羊の世話をすることでした。羊の母親は複数の赤ん坊がいると、すべての子羊の世話をしないことがあります。わたしは、そのような子羊の世話をしました。毎年、そのような子羊が5頭から10頭いました。

わたしは毎日、フォルクスワーゲン・ビートルという小さな青い車を運転して牧草地に行き、クラクションを鳴らしてから、車のドアを開けました。子羊は草地のどこにいてもわたしのところに集まって来ました。古いフォルクスワーゲンの

音をよく知っていたのです。子羊たちは車の後ろにとび乗り、わたしは子羊を乗せて納屋に行き、えさをやりました。

わたしたちは、この子羊のようなものです。わたしたちは別々の場所に住んでいて、生活の中でそれぞれ異なる問題をかかえています。でも、イエスはわたしたち一人一人に手を差し伸べておられます。わたしたちは、主の声を聞くことができるようになります。なぐさめと安心感を求めて主にたよることができます。主と天の御父に愛されていると感ずることができます。

わたしは、生活の中で、羊飼いとしてのイエスに目を向けたときに、人生が変わりました。自分の人生を救い主の手にゆだねるときに、主の愛を感じ、主を信頼できるようになります。●

クリスティナ・クロスランドとのインタビューから。

